

講演会「絵馬を語る

～考古学からみた絵馬の歴史～

平成 30 年 10 月 28 日（日）

帝塚山大学教授

清水 昭博 氏



今日の講演は絵馬の話をさせていただきます。馬と人は古代から非常に深い関係にあり、やがて馬に願いを掛けるという考えができました。そうした考えのもとでできたものの代表的なものが絵馬であります。この度、島本町若山神社の絵馬が町指定文化財となったことと関連し、絵馬のルーツをポイントにしてお話をさせていただきます。

まず、少し変わった現代絵馬をご紹介します。奈良薬師寺の絵馬は、馬ではなく「心」という文字が書かれていますし、春日大社のハート型絵馬や、アニメのキャラクターを描いている絵馬があります。神奈川県要石神社の絵馬は、キセルに鍵がついている絵が描かれていて、禁煙の願いが込められています。このように現代、絵馬に色々な決意や願掛けをして奉納します。

さらに時代を遡ってみますと、江戸時代には馬や神仏の像、祭具や祈願者の礼拝像など色々なデザインの絵馬が奉納されています。島本町指定文化財の若山神社「曳馬図絵馬 1」は 86 cm×134.5 cm でかなり大きい絵馬です。天明 6（1786）年という年号と作者の名前も書かれています。中央の黒い馬の両側に手綱を持つ人物が描かれ、板全体に馬を描いています。他に黒い馬に猿が乗っている「猿猴乗馬図絵馬」と、男 2 人が馬をひっぱっている「曳馬図絵馬 2」があります。また、「竹虎図絵馬」は直径 80cm の珍しい円形の絵馬です。江戸時代の絵馬は大型化していて、絵馬を奉納した人物の名前や年号が書かれている特徴が、現在の絵馬に通じると言えます。

続いて、中世の絵馬です。奈良県葛城市の当麻寺曼荼羅堂からみつかった絵馬には馬と馬曳きの顔が描かれていて、若山神社のような絵馬のルーツが室町時代初期まで遡る事がわかります。秋篠寺の絵馬には馬が描かれていて、古くなるほど画題が馬に集約されてくるのがうかがえます。

次に、絵画史料からみて、絵馬の歴史が平安時代まで遡ることができます。平安時代後期に描かれた『当麻寺年中行事絵巻』の本殿の柱には絵馬が飾られていて、絵馬を神社に奉納していたことがわかります。鎌倉時代に描かれた『一遍上人絵伝』の中には、築地の壁の上に絵馬が描かれています。この絵馬は 2 枚 1 セットで、赤や緑の着色がされていて、若山神社の絵馬に通じる色付きの絵馬が鎌倉時代にあったことを示しています。室町時代の『慕帰絵詞』は、ご神木の前に跪いた僧と貴族の男性が祈りを捧げている絵で、木の枝にたくさんの絵馬が 2 つセットでかけられています。絵馬を 2 つセットにする場合が多かった事がわかります。

つぎに、発掘で出土した絵馬を紹介します。全国ではたくさんの遺跡の発掘調査が行われていますが、絵馬は全国で約 100 点しか見つかってない、非常に珍しい遺物です。まずは、奈良時代の平城宮二条大路から見つかった絵馬です。ここは藤原不比等の息子の藤原麻呂が住んでいた場所で、絵馬と一緒に天平 9（737）年頃の木簡がみつかっています。大きさは、横が 27.2 cm、縦が 19.6 cm です。蛍光 X 線分析により実際は美しく色付けされていた事がわかっています。馬の足も頭も木の

板いっぱい描かれていますが、尻尾が欠けて描かれています。続いて、奈良市の日笠フシダ遺跡から見つかった絵馬は、赤外線を通すと、馬の顔の表情や筋肉、尻尾や鞍の表現もはっきりと見えて、色も復元できました。大きさは二条大路の絵馬と同じです。先程と同じく、尻尾は欠けていて、さらにたてがみも欠けています。また、大阪の加美遺跡から出た絵馬の馬は右向きと左向きがあり、中世の絵画に見られた2つをセットで使う例が、古代にもあったことを示しています。

続いて、大阪四條畷市の讃良郡条里遺跡から出てきた絵馬には神馬と書いてあり、神に奉ずる馬だと考えられていたことがわかります。また、奈良時代に役所があった静岡県伊場遺跡からも絵馬が見つかっています。同じく、静岡県の神明原元宮川遺跡から出た絵馬は、小ぶりで馬が墨描きされていて、僧が馬を曳いている姿が若山神社の絵馬と同じです。

近畿地方から離れた例では、秋田県の払田柵跡の絵馬があります。頭の部分が欠けているところが平城宮で出土した絵馬と同じです。島根県の青木遺跡の絵馬も役所に関係した場所から出てきています。このように平城宮を中心とした大和、河内、摂津以外の、離れた地方からも絵馬が出土していて、役所から出土している所が絵馬の性格を表していると思います。以上、現在から奈良時代までの絵馬を遡ってお話をしました。

次に絵馬が考古学の解釈でどう理解できるのかを説明します。絵馬の役割は、祈雨と除災がありますが、最初の役割は、災いを除く為に作られたと考えています。平城宮の内裏周辺の排水溝から絵馬が出土したことから、恐らく何らかの災いを除くための儀式や祀りをしてから溝に捨てたと思います。つまり内裏にいる天皇や天皇家の人々の為に絵馬が使われました。また、平城京二条大路の道から出てきた絵馬も、藤原麻呂邸の外側に捨てたもので、災いを防ぐ目的で絵馬が使われ、廃棄したと考えられます。続いて、平城京のすぐ外側にある大和郡山市の稗田遺跡から出土した絵馬は、平城京を災いから防ぐために使われたと思います。そこで興味深いのが日笠フシダ遺跡です。ここは大和と伊賀の境界で、ここで絵馬を使って大和に災いが入るのを防いだのでしょう。日笠フシダ遺跡からは絵馬以外に祭祀遺物の1つである土馬がたくさん出ています。土馬も災いを防ぐ道具として使われたと考えられます。平城京を発掘すると、色々な祭祀遺物が出ます。そうした祭祀遺物のなかで、絵馬も土馬と同じく、馬形として位置付けられます。絵馬が誕生する以前、馬形は土や木で作りました。藤原京を掘るとたくさん土馬が出土します。当時の人は災いを馬に乗せて別の世界に送ろうと考えました。ほとんどの発掘で出てくる土馬は、足や首が欠けています。絵馬にも尻尾やたてがみが欠けているものもありましたが、いずれも災いが現実の世界へ戻ってこないように、馬の身体の一部を欠如させたのではないかと考えられます。

最後に、絵馬が誕生した背景をお話します。現在のところ、一番古い絵馬は、天平9年の平城京二条大路の絵馬です。それにつぐのが日笠フシダ遺跡の絵馬で、天平10(738)年の木簡と一緒に出土しています。おそらく天平10年に遺跡周辺で陰陽博士が除災に関わる祭祀をしたようです。

『続日本紀』によると、天平9年には全国的に干ばつがあり、天然痘が流行しました。絵馬の出土場所が平城宮周辺や平城京や大和国の境界であることから、絵馬は都への天然痘を防ぐ目的で創作された祭祀具であったと考えられます。現在、絵馬は様々な人々の願いを叶える道具ですが、歴史を遡ると天平9年に突き当たります。その時に、大規模な災いから防ぐ道具として作られたものが絵馬だと思う次第です。今回は若山神社の絵馬の起源に関連し、発掘で見つかった絵馬を中心にお話をさせていただきました。ご静聴どうもありがとうございました。